

施策番号	1305		
施策名	子どもの健全育成のための環境づくり，放課後の子どもたちの居場所づくり		
概要	放課後の子どもたちの安心・安全な居場所を確保するため，児童館・学童保育所における取組の充実を図るとともに，児童館と地域との連携の強化を進める。		
担当局・部室	保健福祉局・子育て支援部	共管局・部室	
上位政策	13 子育て支援		
施策に関する主な分野別計画等	京都市未来こどもはぐくみプラン(2015～2019)		

施策の評価

1 客観指標評価

指標名	26年度	27年度	28年度評価					
			前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標のウエイト
1 児童館の利用児童数(人)	a	a	665,805	615,108	665,805	92.4%	c	1.00
2 学童クラブ事業の登録児童数(人)	a	a	9,267	10,833	9,267	116.9%	a	1.00
3 中高生と赤ちゃんとの交流事業参加人数(人)	-	-	14,601	15,187	14,601	104.0%	a	1.00
4 -	-	-	-	-	-	-	-	-
5 -	-	-	-	-	-	-	-	-
6 -	-	-	-	-	-	-	-	-
			客観指標総合評価				a	

2 市民生活実感評価 *この評価は，毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問	26年度	27年度	28年度回答						
			そう思う	どちらかと言うとそう思う	どちらとも言えない	どちらかと言うとそう思わない	そう思わない	有効回答者数	評価
1 子どもたちが安心して過ごせる居場所や遊び場が身近にある。	c	c	45	119	168	87	69	488	c
			9.2%	24.4%	34.4%	17.8%	14.1%		
2 -	-	-							-
3 -	-	-							-
4 -	-	-							-
5 -	-	-							-
			市民生活実感調査総合評価						c

3 総合評価(客観指標総合評価+市民生活実感調査総合評価)

B	施策の目的がかなり達成されている					27 年度	B
	重み付け	<input checked="" type="checkbox"/> 客観指標	a	<input type="checkbox"/> 市民の実感	c		
(重み付けの理由) 対象者が子育て世帯という限られた施策であり、市民の生活実感に施策の効果が反映されにくいと考えられるため、客観指標を重視する。						26 年度	B
(原因分析) 客観指標総合評価 <input checked="" type="checkbox"/> b評価以上であり、施策の効果が客観指標に表れている。 <input type="checkbox"/> c評価以下であり、次の原因が考えられる。							
(原因分析) 市民生活実感調査総合評価 <input type="checkbox"/> b評価以上であり、施策の効果が市民の実感に表れている。 <input checked="" type="checkbox"/> c評価以下であり、次の原因が考えられる。 ・「学童クラブの登録児童数」等は着実に増加しているが、市民生活実感評価は昨年度に引き続きc評価となっており、「子どもたちが安心して過ごせる居場所や遊び場が身近にある」という実感にはつながっておらず、市民への広報・周知を強化していく必要がある。							

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		28年度事務事業 評価結果における 目標達成度評価	担当局
		27年度 決算額	28年度 予算額		
1	八瀬野外保育センター運営補助	17,438	17,566	良い	保健福祉局
2	桂坂野鳥遊園運営補助	4,284	4,284	普通	保健福祉局
3	児童の健全育成及び放課後留守家庭児童対策	3,427,429	3,521,647	普通	保健福祉局
4	京都こども文化会館運営補助	28,995	33,111	良い	保健福祉局
5	放課後ほっと広場	54,837	62,462	かなり良い	保健福祉局
6	学童クラブ待機児童対策(整備・児童館)	21,893	20,636	—	保健福祉局
7	民設児童館整備助成	0	41,656	—	保健福祉局
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

- ・一元化児童館については、引き続き、自由来館機能の充実などにより、「児童館の利用児童数」の向上につなげる。
- ・平成27年4月からの子ども・子育て支援新制度の施行により、学童クラブ事業の対象学年が小学校6年生までに拡大したため、学童クラブ事業の利用希望者が増えていくことが予想されるが、学童クラブ事業の設備・運営に関する基準を満たしつつ、利用希望者全員の受入を維持するため、引き続き、必要な実施場所や職員の確保に努める。
- さらに、市民の皆様にも「子どもたちが安心して過ごせる居場所や遊び場が身近にある。」と、実感として反映されるよう、学童クラブ機能を有する児童館等が整備されていないが、学童クラブの一定のニーズがある地域において、放課後まなび教室と学童クラブ機能を有する事業を融合した「放課後ほっと広場」事業の実施や、学童クラブ事業を補完する「地域学童クラブ」への事業補助など、幅広い子育て支援の取組の推進に努めていく。
- ・また、児童館と地域との連携強化の観点からも、子育て世帯以外も含めて市民への広報・周知に努める。

施策名	1305	子どもの健全育成のための環境づくり，放課後の子どもたちの居場所づくり
-----	------	------------------------------------

指標名	児童館の利用児童数（人）
-----	--------------

担当課	児童家庭課	連絡先	251-2380
-----	-------	-----	----------

1 指標の説明

児童館における自由来館児童の利用者数の合計

2 指標の意味

仕事と子育ての両立に資する児童館の利用状況を示す指標

3 算出方法・出典等

算出方法：当該年度末における児童館利用者数の累計
出典：各施設からの報告

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	26年度	27年度		数値	根拠	達成度
数値	665,805	615,108	50,697人減	665,805	過去5年間の最高値	92.4%

数値	全国順位	中長期目標			備考
		数値	目標年次	達成度	

5 評価基準

最新の数値が過去5年間の

- a：最高値以上
- b：最高値未満～上中間値（最高値と平均値の間）以上
- c：上中間値未満～平均値以上
- d：平均値未満～下中間値（平均値と最低値の間）以上
- e：下中間値未満

6 基準説明

過去5年間の数値を基に，過去5年間の最高値以上をa，平均値以上をcとし，最低値も含めた按分で基準を設定した。

最高値：665,805（平成26年度）
平均値：613,933
最低値：557,565（平成22年度）

7 評価結果

26	27	28
a	a	c

指標名	学童クラブ事業の登録児童数（人）
-----	------------------

担当課	児童家庭課	連絡先	251-2380
-----	-------	-----	----------

1 指標の説明

児童館及び学童保育所において実施している，学童クラブ事業の登録児童数の合計

2 指標の意味

仕事と子育ての両立に向けた昼間留守家庭への支援状況を示す指標

3 算出方法・出典等

算出方法：当該年度当初における学童クラブ事業の登録児童数の合計
出典：各施設からの報告

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	26年度	27年度		数値	根拠	達成度
数値	9,267	10,833	1,566人増	9,267	過去5年間の最高値	116.9%

数値	全国順位	中長期目標			備考
		数値	目標年次	達成度	

5 評価基準

最新の数値が過去5年間の

- a：最高値以上
- b：最高値未満～上中間値（最高値と平均値の間）以上
- c：上中間値未満～平均値以上
- d：平均値未満～下中間値（平均値と最低値の間）以上
- e：下中間値未満

6 基準説明

過去5年間の数値を基に，過去5年間の最高値以上をa，平均値以上をcとし，最低値も含めた按分で基準を設定した。

最高値：9,267（平成26年度）
平均値：8,525
最低値：7,996（平成22年度）

7 評価結果

26	27	28
a	a	a

施策名	1305	子どもの健全育成のための環境づくり，放課後の子どもたちの居場所づくり
-----	------	------------------------------------

指標名	中高生と赤ちゃんとの交流事業参加人数（人）
-----	-----------------------

担当課	児童家庭課	連絡先	251-2380
-----	-------	-----	----------

1 指標の説明

児童館において実施する「中高生と赤ちゃんとの交流事業」への参加人数の合計

2 指標の意味

子どもを共に育むまちづくりに向けた思春期児童の健全育成の進捗状況を示す指標

3 算出方法・出典等

算出方法：当該年度中における中高生と赤ちゃんとの交流事業参加人数の合計
出典：事業担当課調べ

4 数値

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	26年度	27年度		数値	根拠	達成度
数値	14,601	15,187	586人増	14,601	過去5年間の最高値	104.0%

	全国順位	中長期目標		
		数値	目標年次	達成度
数値				根拠

備考	前指標「中高生と赤ちゃんとの交流事業実施箇所数（箇所）」については、「京都市未来子どもプラン」に掲げる目標値を達成したことから指標を変更する。
----	---

5 評価基準

最新の数値が過去5年間の
a：最高値以上
b：最高値未満～上中間値（最高値と平均値の間）以上
c：上中間値未満～平均値以上
d：平均値未満～下中間値（平均値と最低値の間）以上
e：下中間値未満

6 基準説明

過去5年間の数値を基に，過去5年間の最高値以上をa，平均値以上をcとし，最低値も含めた按分で基準を設定した。
最高値：14,601（平成26年度）
平均値：12,639
最低値：11,416（平成22年度）

7 評価結果

26	27	28
-	-	a